

評定対象者

● 対象：現在も日本語教室や通信教育など、何らかの形で学習を継続ないし継続希望の中国帰国者 すなわち、

- ・今の日本語力に満足していない人
⇒ 既にもあまり困っていない人や、困難を感じていても学習意欲のそれほど高くない人を含まないため、中国語系生活者の日本語力全般の傾向を反映していない
- ・学習時間が多少なりとも確保されている人
⇒ 男性は働き盛りの年齢層では偏って少なく、定年退職後の年齢が多い
- ・通信教育^{※1}受講中の対象者の場合はスカイプ^{※2}が利用できる環境が得られる人

※1 国の帰国者援護施策として実施されている「日本語遠隔学習課程」のこと
 ※2 スカイプでの面接は実際の対面とは異なる側面があるが、今回それは考慮しない。また、無作為抽出ではなく、要因別の補正に足る件数が確保されないため、統計的な検定は行わなかった。

◎ 対象者：2010/11～2014/5 120名 (面接時70歳以上の人と日本で高等教育を受けた人を除いた)※このうち滞日年数5年未満は16名。

面接時年齢×性別 ※網掛けは性別が大きく崩れている年齢層

面接時年齢	18-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		計
件数	10		25		39※		17		29		120
5歳区分	18-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	
女	4	5	8	15	16	9	8	6	4	10	85
男	1			2	7	7	1	2	5	10	35
計	5	5	8	17	23	16	9	8	9	20	120

来日時年齢組×滞日年数 ※網掛けは最頻値(以下同じ)

滞日年\来日時	18-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	計
5年未満	5	6	5						16
05-07年	4	2	4	2	1	1	3	2	19
08-10年	1	2	2	1	1		1	1	9
11-15年	5	11	3	4	4	1		1	29
16-20年	4	6	4	1	3	4	3		25
21-31年	5	2	4	4	5	2			22
総計	24※	29	22	12	14	8	7	4	120

今回の対象者の評定結果

滞日年\水準	II	II+	III-	III	III+	IV-	IV	IV+	V-	V	計	最頻値
5年未満	3	3	2	2	2	2	2				16	散在
5-10年	1	2	1		7	9	7	1			25	IV-
11-15年		1		3	3	4	8	6	3	1	29	IV
16-20年			1	2	5	7	6	3		1	25	IV-
21-31年			1			4	6	10	1		22	IV+
総計	4	6	5	7	17	26	29	20	4	2	120	IV
%	3.3	5	4.2	5.8	14.2	22	24	16.7	3	2	100	

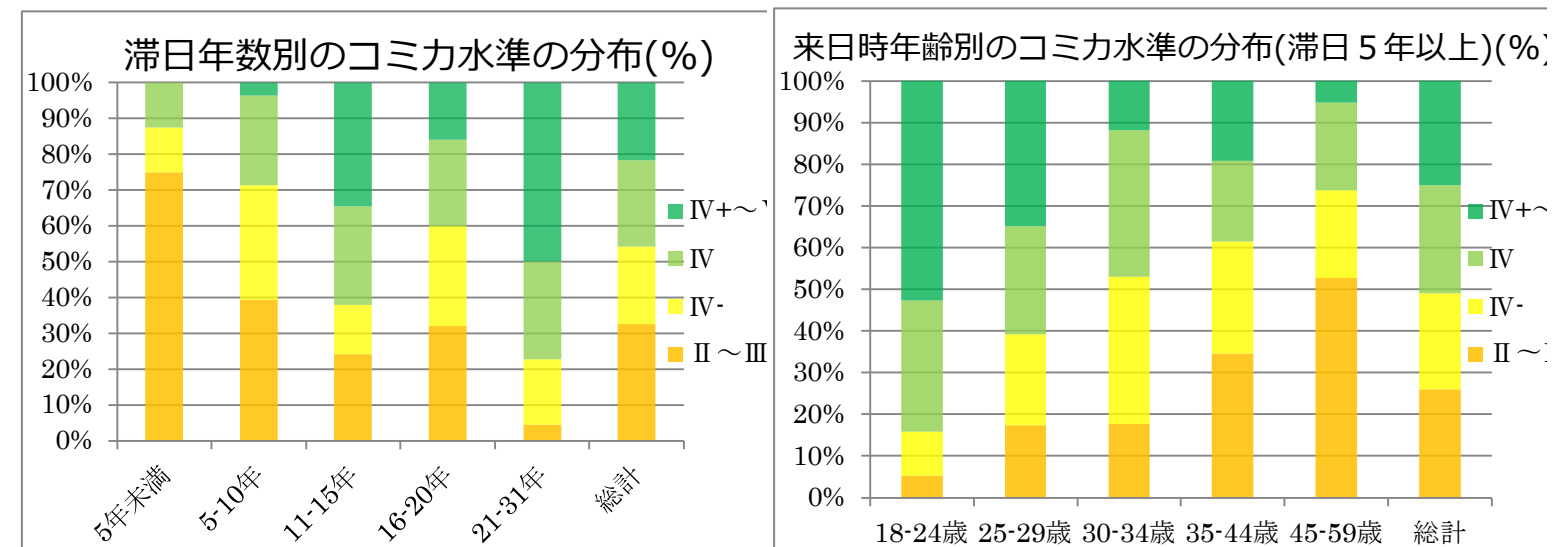
⇒ IV-～IV+に集中しているが、滞日年数が長い人に水準高めの人が多いとは言える

※II～III+を「困難度高」、IV+～Vを「困難度低」のグループとしてまとめると…

滞日年\水準	II～III+	IV-	IV	IV+～V	計	最頻値
5年未満	12	2	2	0	16	II～III+
5-10年	11	9	7	1	25	II～III+、IV-
11-15年	7	4	8	10	29	散在
16-20年	8	7	6	4	25	II～III+、IV-
21-31年	1	4	6	11	22	IV+～V
総計	39	26	29	26	120	II～III+
%	32.5	21.7	24.2	21.7	100	

上の表の%グラフ化

→これを来日時年齢別に見ると、来日時若い人に高水準の人が多い



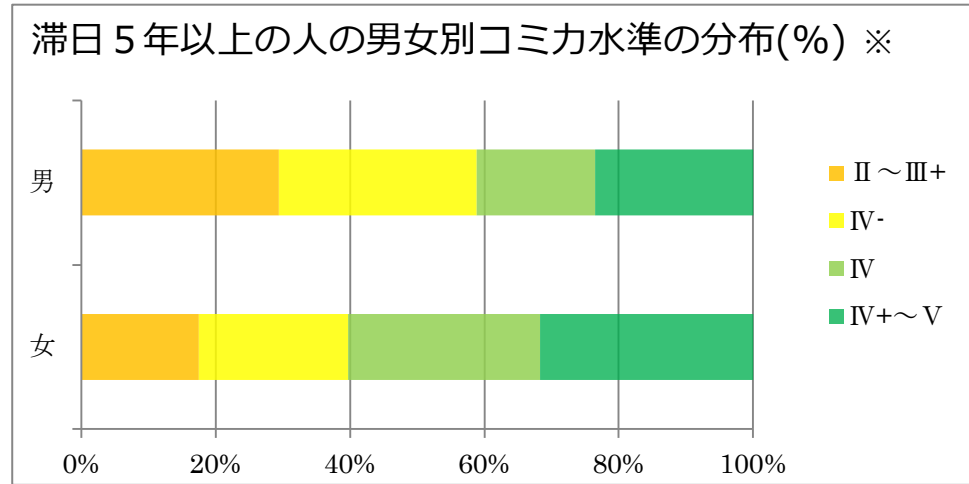
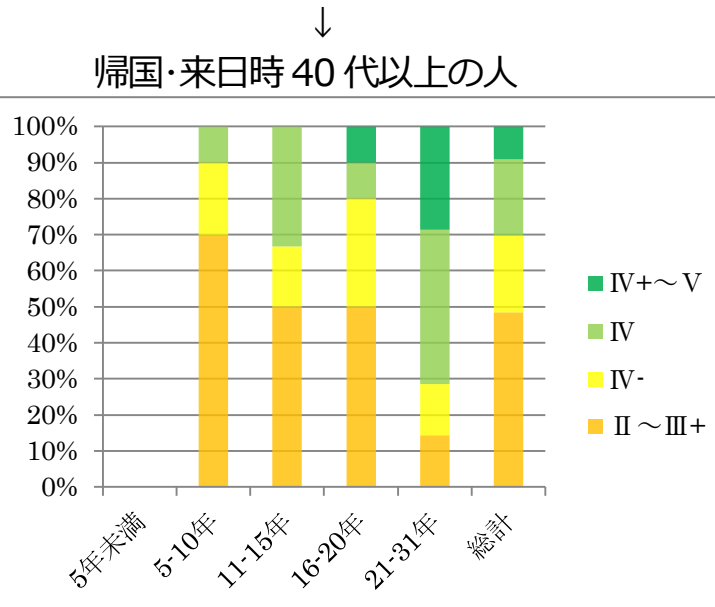
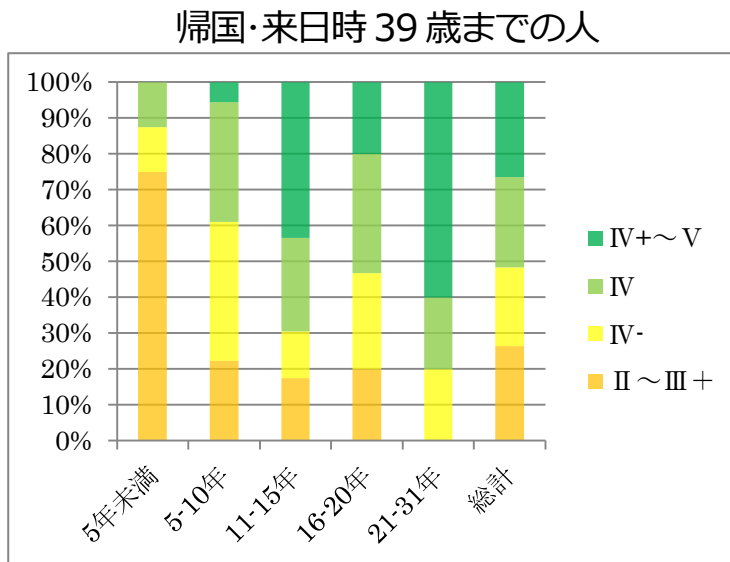
「通じなさ」に関わる要素(産出面)

この結果を帰国・来日時年齢 40 歳未満・以上で 2 つに分けて見ると…

帰国・来日時 39 歳までの人: ※滞日 5 年以上の人は水準ⅢとⅢ+							帰国・来日時 40 代以上の人: ※滞日 10 年以上でもⅢ+までが多い						
水準 滞日年	Ⅱ~ Ⅲ+	Ⅳ-	Ⅳ	Ⅳ+ ~Ⅴ	計	最頻値	Ⅱ~ Ⅲ+	Ⅳ-	Ⅳ	Ⅳ+ ~Ⅴ	計	最頻値	
5 年未満	12	2	2		16	Ⅱ~Ⅲ+					0	///	
5-10 年	4	7	6	1	18	Ⅳ-	7	2	1		10	Ⅱ~Ⅲ+	
11-15 年	4	3	6	10	23	Ⅳ・Ⅳ+	3	1	2		6	///	
16-20 年	3	4	5	3	15	Ⅳ	5	3	1	1	10	Ⅱ~Ⅲ+	
21-31 年		3	3	9	15	Ⅳ+	1	1	3	2	7	///	
総計	23	19	22	23	87	Ⅳ	16	7	7	3	33	Ⅲ+・Ⅳ-	

40 代以降で帰国・来日した人では、滞日年数にかかわらず、低水準に留まる人が少なくない。

↓%グラフでみると…



(※ 男女比が今回の対象全体の男女比とかけ離れている面接時 60 歳以上の人を除外してある)
女性の方に高水準の人が多い。

● 音韻上の問題、大！

- ・ 拍 : 長音 - 直音 - 撥音 - 促音
- ・ 有声音 - 無声音
- ・ k 音: き-ち、ぎ-じ、きゃ-ちゃ、ぎゃ-じゃ (発音困難)
- ・ 母音: う段 - お段
- ・ n 音 - l 音

▶ これらの聞き分けができないまま、耳で覚えた語を発音した場合、NS には理解が困難な場合多し (IV+の人でも NS が聞き取れない場合あり)

▶ 各要素が複合した場合、文脈があっても NS に殆ど理解不可能

例) 「クラゲ、肌にいいですよ」 ⇒ 「コラーゲン」と言いたかった
 「クリーニングで働いてます」 ⇒ 「クリニック」と言いたかった
 ビールの製造 ⇒ ビルの清掃、班長 ⇒ 発注、巨乳 ⇒ 恐竜 等等

▶ 上記が×でもアクセントが合っていれば通じたかも…例) 「はいしゃ」(会社)

● 語彙・文法上の問題

- ・ 語彙・慣用句の覚え間違いが多い
 - 例) 「うすしろい所(美しい所)」 ⇒ 中国語の干渉も多い 例) 「かんず(漢字)」、「日本語少しできる(～しかできない)」
 - ⇒ 違う仮名で覚えている場合 例) 「は」行音 ⇔ 「は」行音
- ・ 助詞の省略・誤用、主語・目的語の過剰な省略、語順顛倒 ⇒ 誰が何をしたの??
 - 例) 私の親戚に電話したから、このことは親戚教えた。親戚は、から先生に電話したから
 - ・ 授受の補助動詞の不使用や誤用 ⇒ 言いたいことは?
 - 例) あの人、次の日一緒に連れて行って{くれて}買い物行って、
- ・ 時制や相に無頓着 ⇒ 起こったこと? まだ? 例) 日本は新聞報道、肉まんと餃子の事件は影響、店はやめます。営業は正常販売は悪いけど、前大丈夫です。
- ・ 条件節を辞書形や「て形」で代用 ⇒ 意図が??
- ・ 「て/た形」の誤用: 「てから」-「たから」等
 - 例) 前は私、○○住んでるから、去年はマンション買ったから、引っ越したから
- ・ 名詞修飾: 「～ての N」の多用、「～た N」と「～する N」不分別
- ・ 化石化したフィラーを含む語の繰り返し

「伸び悩み」/「協働力」事例紹介

●「伸び悩み」事例

▶面接時 40代前半、30代前半で来日、滞日 11-15年、女性。集中的な日本語の研修経験なし。工場の検査の仕事。日本語を日常的に使う環境。水準Ⅲ

(●●●ってどんなところですか)ええ、えへ、ちよと…、(山とか多い?)あ!、山、多いです、(山多いの?ふーん、じゃ、何かこう、森林が多い)はい、森林。(ふーん)原始森林、(原始森林、はー)**く、(有名なんですか、原始森林)有名です。(へー。原始森林ってやっぱりあの、古い…)あー、あの一、古い…、えー、あの、あの●●●のところ、あの、えー、と一、(神農架の、)大森林、(後略)

▶面接時 40代後半、30代後半で来日、滞日 5-10年。女性。集中的な日本語の研修経験なし。以前、中華料理店経営。当時は日本語を日常的に使う環境。水準Ⅲ+。

(その時ご家族といらっしゃったんですか)あ、ほう、そうです。家族と一緒に日本にきました。きるか、ずっと家です。子供小さいです。お世話になります。日本語勉強、アーちよと大変です。今、前は自分の主人と自分の店やります。中華料理です。

(あ、そうなんだ、日本に来たときは…)日本来ます、5年以後から中国料理屋、持ちます。持ちますば、日本は新聞報道、肉まん和餃子の事件は影響、店はやめます。営業は正常販売は悪いけど、前大丈夫です。今やめる。

(日本に来たときはご主人と二人で来たの?)そうです。(そのときはお子さんはいなかったの?)お子さんあります。こどもあります、子供二人です。上の娘は大学三年生です。

●「協働力」の高い事例

▶面接時 30代後半、20代前半で来日、滞日 11-15年、男性。集中的な日本語の研修経験なし。産廃他、多業種の経験あり。日本語を日常的に使う環境。水準Ⅴ-、「協働力」+2。

一番最初頃はちよと、全然、その自分日本に来る前の自分のイメージと、あの全然違うから、例えばその、(うん)あのなんていうのかな、こっちで会社のその二回ほどその葬式っていう、それ参加したことがあるんです。(うんうん)こっちは、なんていうのかな、こっちの、その参加したときが、あのむこうの自分の故郷と全く違うから。(うーん)いろいろあのその何て言うかな、あっちの習慣と全く違うから。自分も初めていってどうすればいいか、そ

れで、あの隣の友達はどうやってるとかそれを見ながら、(うんうん)ときどきしながらとか、…そこが一番感じた。(うーん、大分やり方違いました?)そうですね。全然違うんですね。(ふーん、どういうところが一番びっくりしました?)一番最初はそのお通夜るときに行ったときですね。そのあの友達の家がちょっと狭かったんですね。(うん)あのその何て言うかな、参拝というかな、(うん)あっち行って、えーと、この亡くなりた人に礼はするんですね。挨拶終わってから、こっち振り向きて、もう場所がなかったから自分が背中はその、その亡くなりた人の方に向いちゃったから、(あー)そんな時は先輩はすぐ言う気なかったから、もうちよと1分ぐらい経ってから、あの「●さん、ちよと来てください」といわれて、(うんうん)あの、こういう場合は、背中が絶対亡くなりた人の方に向かないようにっていう、あの、教えてもらったんですよ。(あー、そうか)

●「伸び悩み」ありつつも「協働力」の高い事例

▶面接時 40代前半、20代前半で来日、滞日 16-20年、男性。集中的な日本語の研修経験なし。ビル清掃他、多業種の経験あり。日本語を日常的に使う環境。水準Ⅳ-、「協働力」+2。

(中国と違うなと思ったところがありましたか?)言葉わからない(あ、言葉ねえ)、あとは何か、何か、自分わからないし、皆さん、やっぱりちよと、何ですかね、皆さん、中国人が仲間、やっぱりそのときはさ、あんまりいないじゃん、19年前、今と全然違うじゃん(今はねえ、たくさんいますよね)、今さ、皆さ、そのときは仲間いないじゃん、皆忙しいから、自分の、自分のなんか**自分の思い、思い出すよ、自分の思い出す、いかないんですよ。(んー、)電車も乗るも困るけど(電車に乗ったり)、わかんないし、ね、(そうですか)思うの悲しいですよ、昔は。思ったら悲しいですよ。

(考え方で違うところがありますか)そうですね、日本人は、やっぱ僕らチュウカナド今までは***、日本人はまっすぐ、中国人は何かはつきりしない。(え?反対じゃなくて?中国人がまっすぐ?)日本人がまっすぐ、まっすぐ考え(日本人がまっすぐ!中国人ははつきりしない?)何か、何かまじめ、まじめしいいんだけど、まじめしないといいんだけど*まじめしないと**、自分間違えただけ自分認められないといったの多いんですよ。(間違いを認めない)認めない(のは、中国)多いですよ、それで多い(ふーん)あまり日本人よりは少ない。(ふーん、日本人は自分が間違いをしたらすぐ認める)すぐ、正直言っちゃう、ちよ、これ僕の経験だからね、日本の**、やっぱそう感じたけど、今戻ったら、何か向こうの人は、何か考え方とか、今、どんどん変わってますけど、もう歳とった人は皆、そ、何かやったこと、自分間違えたらあー、認められないな、今、小ちゃい子は正直よ、教育違うから、昔と。先進国と新興国と違うでしょ